

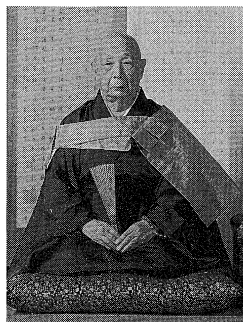
市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045(661)0166

未年にあたり

横浜市仏教連合会名誉会長
 大本山総持寺貫首

梅田信隆



本山護持の御道念によったものであります。新年に当り、年頭の句を次の如く認めました。

福寿の平成 辛未の春

三松の瑞気 全真を現す

門を八字に開く祖翁の誨

啐啄同時 用處親し

というものです。御開山常洛大師

新年おめでとうございます。昨

年はいろいろなことがありました。天皇陛下の御即位、大嘗祭の儀は、それこそ難値難遇の行事で、有難いことでありました。当市仏連四十周年、釈尊奉讃会十周年の記念大会が盛大に催され、有意義な活動で地域仏教会運動と布教に効果の実が上ったのであります。一時のことに終らず、そのころを長く護持、研鑽されることを希望します。

次に本山にとつては「三松閣」

落慶と、御移東八十年記念の法要が、春三月から秋十一月にかけて全国宗門檀信徒をはじめ、当市仏連奉讃会の団参等内外多数の御上山をお迎えし無事円成させてもらいました。この間、関係各位のご努力には衷心感謝するものであります。三松閣は、御開山さまや仏祖のご法力により落慶を見たものであり、各位の物心両面にわたる

第四句の啐啄同時の語は、中国唐代の禅僧・法眼文益禪師が初めて用いた語といわれ、この方は修行者を懇切に指導し、利濟を先とした宗風で有名でした。そつたくと訓む方もありますが、正音のさいの音に遵います。元來は、鳥が孵化する時、親鳥がその機を感じ外から啄み、雛は内からその殻を吸うて外に出ようとす。その間髪を容れない親子同時のはたらきをい

つたものす。これを啐啄同時の機用と呼び、師弟間のところのつながりを大切にいたしました。ここで、寺檀和合の昵みを示し、骨肉の思いを致すべしとも記された御開山さまのお言葉を、新年頭に当り改めて心に銘じ、御挨拶とします。

謹賀新年

平成三年辛未元旦

福壽 平成 辛未 春
 三松 瑞氣 全真 現す
 門を 八字 開く 祖翁 誨
 啐啄 同時 用處 親し

- | | |
|-----------|-----------------|
| 参 与 | 福永隆昭 |
| 会 長 | 中区西有寺住職 横山敏明 |
| 副 会 長 | 保土ヶ谷区福聚寺住職 森山正城 |
| 副 会 長 | 磯子区海照寺住職 滝川覚道 |
| 副 会 長 | 旭区長昌寺住職 |
| 会 報 指 導 | 玄野孝善 |
| 専 務 理 事 | 鶴見区松蔭寺住職 川上敬吾 |
| 会 計 | 港南区浄念寺住職 橋下賢明 |
| 会 報 担 当 | 瀬谷区西福寺住職 備前恭忍 |
| 税 務 委 員 長 | 緑区福聚院住職 斎藤隆法 |
| 墓 地 委 員 長 | 西区円満寺住職 西郊良光 |
| 監 事 | 鶴見区正泉寺住職 野沢隆幸 |
| 監 事 | 緑区弘聖寺住職 内野公雄 |

第十六回釈尊涅槃会

一、日時 平成三年二月十一日(月・祭・友引) 午後一時受付

一、場所 「大聖寺」 横浜市栄区小菅ヶ谷町二六一九番地

電話 〇四五―八九―一三三四四

交通 JR根岸線「本郷台駅」下車 徒歩十五分

一、会費 無料

一、僧侶は改良服に略袈裟にてお願いいたします。

年頭の御挨拶

横浜市仏教連合会

会長 森山正城

新年お目出とうございます。諸大徳には色々ご希望に満ちた年であると思えます。

先般、市仏連の年中行事であります涅槃会の件で栄区仏教会長の大聖寺様まで行ってきました。大聖深山の古寺と申しますか、本堂の彫刻は珍しい、素晴らしいものでした。それに庫裡は近代的な建物で日当りの良い広々としたお座敷です。栄区の副会長さんも理事



朝念親世音菩薩観音 正城 画

の方々も同席して下さって、種々打ち合わせを致しました。皆さんが熱心に団結している姿は誠に喜ばしい次第です。数年前、行政の関係で戸塚区より泉区と共に栄区も分れました。当区仏の寺院数は少ないけれども、和尚様方は皆、熱意にあふれ、これからの寺院のあり方や市仏連の行き方等を真剣に考えられています。心より敬意を表します。本年二月十一日の涅槃会が盛大に行われますよう祈念し、微力ではありますが精一杯やらさせていただきます。ご協力の程宜しくお願い致します。

次に昨年の十月二十三、二十四

年頭のご挨拶

横浜市釈尊奉讃会

会長 宇野忠夫

皆様明けましてお目出度うございます。いづれも御健勝で越年の御事と拝察心よりお喜び申し上げます。

横浜市釈尊奉讃会も御蔭様をもちまして創立十周年を迎え昨春に横浜市仏教連合会創立四十周年の記念式典と共に明倫高校大講堂に於て盛大に記念行事を挙行いたしました。このよう立派な式典行事を執

等につきましては、特にご相談の必要があるならば、電話で結構です。お返事致します。今回は下手な南画を表紙に描きまわした。もしお若い方の中で南画を学びたいという方がおられましたら、戸塚の北天院様、南区の宝林寺様、久保山の新善光寺様にお尋ねになりますれば、ご相談ののつくださると思えます。今年四月には鎌倉の建長寺の庫裡が落慶致しますので皆様も一度御参拝に行かれてはいかがでしょうか。では日々御精進下さい。

きなをし、人類の平和と幸福のた

め指導的役割が益々大きくなりますことは、国民の一人としても悦ばしいことです。終戦後今日迄に日本がよくここまで繁栄したこと、感慨に堪えません。

また海外に於ては、イラクのクウェート侵攻により湾岸情勢が緊迫を告げておると伝えられておりましたところ、国連安保理事会に於て対イラクへの武力容認の決議がなされました。その結果、全人

質の十二月中解放が決まりましたことは皆様ご承知の通りです。日本を始め各国の人間質となった人々がイラクから出国し帰ることができました。本人は勿論、家族の喜びは察するに余りあります。対イラクについては話し合いによる平和的解決が見込まれる兆しが見えてきました。更に殿国では既にペルリンの壁が除かれていて、東西ドイツが統一国家として再出発いたしました。長い間分割されていた同国が一つに戻ったことは、政治経済の面でも大きな努力が要ることと思えます。将来は大きな力を持つ国家となることと思えます。本年四月にはソ連のゴルバチョフ大統領が来日されることになりましたが、北方領土の話合いも好転することが望まれます。

意なが、加できず大変残念でし

た。市釈尊奉讃会も創立以来十年の間、市仏教会のご援助を頂いて今日に至っております。私共も今後一層の努力をもって人間の心の安らぎと社会の平和のために、信仰心の高揚を図るべく新年に際し決意を致す次第であります。

末筆ながら皆様のご健勝を心より祈念いたし、新年の御挨拶いたします。

周年記念大会開催

平成二年四月二十八日

特別寄付者御芳名統報

- 神奈川区仏教会 (順不同・敬称略)
- 観音寺 本間孝康 慶雲寺 笹本心華 金蔵院 佐伯隆弘 最勝寺 丹野政海 三宝寺 吉水瑞順 青蓮寺 新居宝全 聖徳寺 菱川馨 成仏寺 大熊信光 浄龍寺 水林上巖 葛行寺 藤尾俊夫 西山寺 菊地茂雄 相応寺 水谷雲海 大安寺 水谷和成 東光寺 小鷹隆彦 能満寺 菅沼大覚 豊頭寺 今井忠良 遍照院 山本芳弘 宝秀寺 森秀雄 本慶寺 斎藤英慎 本立寺 田原功淳 身延身道教会 時田龍謙 陽光院 西山道彦 良正寺 金子良正 蓮法寺 津川親真 普門寺 大庭隆信 御芳志御支援の程、誠にありがとうございました。



頌春

祈法愛

横浜市仏教連合会会長

臨済宗建長寺派福聚寺住職

森 山 正 城

〒240 保土ヶ谷区岩井町五六
〒電話 七一五―五五九四

横浜市仏教連合会顧問

真言宗智山派観音寺住職

柳 下 隆 侃

〒222 港北区篠原町二七七七
〒電話 四三一―一四三四

横浜市積尊奉讃会会計

港北区仏教会事務局長

曹洞宗東照寺住職

程 木 徳 明

〒223 港北区綱島西一―二三―一五
〒電話 五三一―一七八三

横浜市積尊奉讃会会長

宇 野 忠 夫

〒236 金沢区金沢町一
〒電話 七〇一―九三三三

横浜市仏教連合会常務理事

瀬谷区仏教会会長

曹洞宗徳善寺住職

尾 崎 正 恵

〒246 瀬谷区本郷三―三六―一六
〒電話 三〇一―〇一九二

横浜市仏教連合会常務理事

栄区仏教会長

浄土宗大誓寺住職

塩 沢 栄 一

〒247 栄区小菅ヶ谷町二六一九
〒電話 八九一―三三四四

横浜市仏教連合会常務理事

泉区仏教会長

浄土宗中田寺住職

香 川 隆 善

〒244 泉区中田町二〇五四
〒電話 八〇二―一四一五

横浜市仏教連合会副会長

保土ヶ谷旭区仏教会会計監査

曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241 旭区さちが丘五九九
〒電話 三九一―一三七九

横浜市仏教連合会参与

神奈川県仏教会長

天台真盛宗新善光寺住職

福 永 隆 昭

〒232 南区三春台一―三三
〒電話 二三一―五七五四

横浜市仏教連合会参与

曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

〒231 中区大平町九六
〒電話 六六一―〇一六六

頌春

祈法愛

横浜市仏教連合会常務理事
保土ヶ谷旭区仏教会長

曹洞宗東光寺住職

志 村 齡 孝

〒240 保土ヶ谷区上星川町五二六
〒電話 三八一〇八〇〇

横浜市仏教連合会顧問弁護士

遠 藤 隆 也

〒110 東京都台東区東上野二一八―七
〒電話 〇三―八三二―二八一九

横浜市仏教連合会常務理事

南・港南区仏教会長

日蓮宗常清寺住職

片 山 宣 英

〒232 南区清水ヶ丘二二三―一
〒電話 二三一―八六六二

横浜市仏教連合会専務理事

臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒230 鶴見区東寺尾一―一八―一
〒電話 五七一―一七〇一

横浜市仏教連合会御用達

東海ビーエス観光株式会社社長

真 川 明

〒232 南区西中町一―一九
〒電話 二四二―七四三四

横浜市仏教連合会常務理事

神奈川区仏教会長

曹洞宗本覚寺住職

守 長 尚 文

〒221 神奈川区高島台一―一二
〒電話 三二二―〇一九一

横浜市仏教連合会会計監査

真言宗智山派正泉寺住職

野 沢 隆 幸

〒230 鶴見区生麦四―三―一四
〒電話 五一―一五―一七五

横浜市仏教連合会常務理事

戸塚区仏教会長

臨濟宗円覚寺派高松寺住職

西 尾 俊 雄

〒244 戸塚区戸塚町四八六―四
〒電話 八六一―三二五七

横浜市仏教連合会顧問

臨濟宗建長寺派金滝院住職

志 村 慎 吾

〒236 金沢区瀬戸十一―十二
〒電話 七〇一―八八二三

横浜市仏教連合会会計監査

曹洞宗弘聖寺住職

内 野 公 雄

〒226 緑区台村五四―九
〒電話 九三一―二五一二

頌春 析法愛

横浜市仏教連合会会計
浄土宗浄念寺住職

橋 下 賢 明

〒233 港南区野庭町一八四三
電話 八四二一七二八八

横浜市仏教連合会常務理事
中区仏教会長
高野山真言宗東福院住職

上 柳 毅 明

〒231 中区本牧荒井町六四
電話 六二三八四一八

横浜市仏教連合会名誉会長
曹洞宗大本山総持寺貫首

梅 田 信 隆

〒230 鶴見区鶴見二一一一一
電話 五八一六〇二一

横浜市仏教連合会常務理事
金沢区仏教会長
真言宗宝珠院住職

佐・伯 隆 義

〒236 金沢区富岡東五一八一一九
電話 七七一五〇一三

横浜市仏教連合会常務理事
港北区仏教会長
曹洞宗保福寺住職

高 橋 哲 英

〒223 港北区日吉四一六一一二
電話 〇四四二八八〇
〇四五一五六一

横浜市仏教連合会会報担当
真言宗豊山派西福寺住職

備 前 恭 忍

〒246 瀬谷区橋戸三一二一一二
電話 三〇一六一三四

横浜市釈尊奉讃会副会長

内 田 惣 次 郎

〒236 金沢区瀬戸一六一一〇
電話 七〇一八二九二

横浜市仏教連合会常務理事
鶴見区仏教会長
浄土宗慶岸寺住職

林 田 祐 康

〒230 鶴見区生麦五一三三一六一
電話 五〇一一二八一六

横浜市仏教連合会常務理事
緑区仏教会長
高野山真言宗福聚院住職

斎 藤 隆 法

〒226 緑区池辺町二二一九六
電話 九四一一一三六六

横浜市仏教連合会副会長
磯子区仏教会長
高野山真言宗海照寺住職

滝 川 覚 道

〒235 磯子区坂下町四一一九
電話 七五一七一一〇四

横浜市仏教連合会常務理事
西区仏教会長
天台宗円満寺住職

西 郊 良 光

〒220 西区久保町一三三九
電話 二三一一四三八三

市仏・釈尊奉讃会 秋の二泊三日の旅

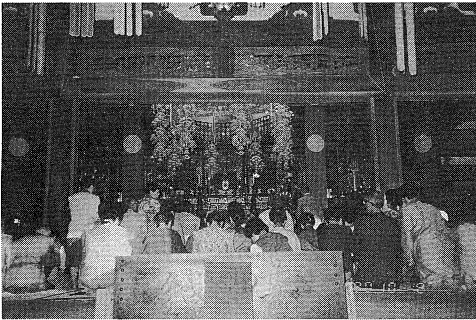
市仏連の前会長・観音寺住職柳下隆侃師を団長とする一行は平成二年十一月一日(月)午前八時にバス二台で鶴見の総持寺へ集合、九時に本堂で三〇名の一山僧侶出仕による三松閣落慶記念法要に参加し祈禱、拝観をかきりに、上野発十四時〇八分の上越新幹線で新潟に行き、福井県より迎えの京福電鉄観光バスで弥彦温泉のホテルのやに夕方着。旅装を解き、ひと風呂あび、ズワイガニで舌鼓を打ち一泊。翌日は少し雨が降った時と処もあったが、全般に天気がよく、朝八時に出発、燕三条インターより北陸自動車道に入り南下、バスガイドさんのおもしろおかしい名案内で、新潟、富山、石川県まで、車窓の外の景観をウォッチングし、十二時半に金沢市森山の加賀料理店の秋月に到着。昼食は名物のじぶ煮であった。寛永年間金沢に滞在したキリシタン宣教師がひそかに仲間に教えたポルトガル料理が庶民の味にとけてきたのだ。鴨肉のスープと葛粉のとろみが特長で、じぶぶ煮といわれるように煮込み立ってられるのでその名がついた。おしつがしたような専用のじぶ椀に盛られた料理は好評であった。

に映えて黄金色に光る。四時半から一時間、祖院の素朴で雄大な、もともと禅寺らしい環境の中で二十名の雲水の修行を見聞し勤行法要、法話、茶菓のもてなしを受けた。庭に白萩、紫萩が花開き、東司の張り紙には、「花の露 小笹のあられ こそれやすきは わが涙」としたためてある。荒々しさの内にも風流があり、一山の老壮若の全僧がバス停まで見送りに出られたのには人情がこもっていた。夜七時に和倉温泉ののと家で親睦の宴を開き、郷土芸能の鬼太鼓を楽しみ、体を休め一泊。三日目はホテル前の朝市で土産の海産物を求め、途中、押水町今浜から羽咋市までの八キロメートルの千里浜の天然のドライブウェイの波打際をバスで走り、加賀市の九谷焼センターを見学した。そして福井県の永平寺門前の宿坊で五観の偈文を唱え食事作法を修し、精進料理を摂り昼食を済ませた。今から約七五〇年前に道元禪師が開創の出家参禅の道場である永平寺の杉並木の境内を歩き、山門をくぐり、禅の規律を守る生活に安らぎを得られるようにとの法話を拝聴し緊張する一行であった。修行僧の案内で勾配のある磨きこまれた各階段を登り下りし、諸堂参拝。法堂では心経を全員で奉誦申し上げた。米原駅前バスを降りたら、JR 駅員がスキを配っていた。十八



於 総持寺 祖院

時半乗車のヒカリ二五六号の車中に薄を飾り、夜空の満月を愛で、一献を交わし思いがけなく仲秋の観月会となる。二〇時三十三分に新横浜に到着した。印象深い楽しい曹洞禅の三大本山参詣の旅でした。釈尊奉讃会の東照寺程木徳明住職がいつもながらの名幹事ぶりを発揮され、観音寺、長昌寺、東照寺、大蔵寺、金龍院、保福寺、西蓮寺、弘誓院、西福寺、善昌寺、徳善寺、中田寺、龍長院、松陰寺、海照寺、奉讃会役員等の各住職、寺院婦人、檀信徒、会員が一致協力したお陰で、すばらしい仏跡参拝旅行となった。誠にありがとうございました。



支部だより

栄区仏教会

十月五日、区仏教会として始め

て、具慰霊堂の奉仕をしました。導師は塩沢会長、同宗の式衆三人を従え、会員五名が列席して、お勤めしました。参加会員は次の通りでした。(敬称略、順不同)

- 大誓寺 塩沢栄一
- 般若院 星野英秀
- 光長寺 鷹巣道孝
- 光明寺 北條祐勝
- 長慶寺 中村良照
- 正翁寺 篁 素明

お経は般若心経と舍利礼文で、問題なく法要は済みました。法要後、会長から「私も遺族の一人なのです。」に始まった法話には、参列者の何人かが涙をぬぐいながら、耳を傾けていました。さわやかな一時でした。少々個人的なことですが、会員のおめでたがありました。

正安寺 小林誠道師

です。五月十七日、大本山円覚寺管長親下を戒師と請拜して、ご自坊で、せい子さんとの結婚式を挙げられました。

会です。それを知ったのは、総会ででしたから、後日会長がお祝いを届けました。今後の活躍が期待されます。

本年、第十六回釈尊涅槃会を、当区で催すことになりました。十二月三日、市仏連幹部との打合せを持ち、それを踏まえて、二十日臨時総会を開き、具体的な検討をする予定になっています。

開催日は、市仏連のご指導で、平成三年二月十一日(月) 祭日、友引 午後一時から

と決められました。会場は、JR

根岸線、本郷台駅から徒歩十五分の小菅ヶ谷町 大誓寺の予定で、初めての重大行事運営に、一同緊張しております。(庶務、筆記)

瀬谷区

昨年末の納会時に交通法話の研修を行った。区仏会長の尾崎徳善寺住職の御指導を受けた。お年寄りの交通事故が増えている。歩行中における高齢者の死亡事故をなすというテーマで機会をみつめて話をした。一例を記す。人生五〇年といわれた時代は遠い昔のこと。今や日本は世界に誇る長寿国で、日本国民の平均寿命は男性七十五歳、女性八十一歳であり、高齢者の方も現役のドライバーとして活躍しているほか、旅行や買い物のため外出、さらにはサークル活動等での戸外活動が活発に行われています。しかし、若い頃とちがって運動能力をはじめ反射神経の低下や無理がきかないのも事実。ちょっとした不注意や無理な横断等により、交通事故が起ると冥府に行くようなことがあってはつきりません。高齢者の交通事故の特徴を理解していただき交通安全に努め、熟年期を楽しく健康に過ごしてもらいたいと思います。

高齢者事故の原因。①信号無視。②車の直前直後の横断。③自転車等の一時不停止、信号無視。法話のポイント。①年寄りの一歩は車の十m走行に相当。車は急に止まらないので無理な横断は絶対にしてはいけないこと。②交通ルールは必ず守り、なまめ横断をしないこと。③自転

車はバイクや車と同じ「車両」の仲間なので一時停止の標識や信号機の表示に従わなければならないこと。④ドライバーから見ても夜間やたそがれときには「ものが見えにくい」こと。薄暮時が約七割である。服装がグレー又は黒系統で視認性が低いものが多い等事故の特徴である。⑤心身の機能の低下(聞く、見る、反応する)は事故につながる。日頃から健康に注意すること。⑥比較的健康で体力に自信を持っている高齢者で事故が多い。そこで、そのような人の自尊心を配慮し、人生の先輩として敬意を持ちワンポイントアドバイスを行うこと。以上を踏まえて、お年寄りの交通安全五則をまとめとして話す。(イ)、クルマ社会の一員です。(ロ)、安全は急がばまわれ。(ハ)、自分の存在を示す。外出は、明るく自立つ服装に心がけましょう。(ニ)、身軽な動きやすい服装、かかとの低い安定した履物を身につけましょう。(ホ)、自信は安全につながりません。(ヘ)、自信は健康状態に注意、安全運転を心がけましょう。右の心得をイラスト入りで書いたチラシが作成されています。正月に寺の行事にいられた檀信徒へ配布しながら、今日研修した話をちょっとでも口添え下さる。社会に生かす法話ということを実演をお願いします。

次に十五年間も掲示伝導の実践で地域の人々に喜ばれている、二ッ橋町の浄土真宗大谷派に属する最勝寺様を師走に訪問。「苦しいことから逃げていると楽しいこと

からも遠ざかる」と寺門脇の外堀の黒板に張り紙で掲示されてある。住職の手書きで一ヶ月ごとに文句を替える。止めようと思ったが、心待ちの方も多いことを知り続けられている訳で、風が紙が吹くとぶと早く張り出してほしいと云われる。

保土ヶ谷・旭区

保土ヶ谷・旭区仏教会では、去る十二月十五日(土)の午後、JRの保土ヶ谷駅西口に、市仏会長の森山正城師と青年僧一人が、手甲・脚絆・天台笠の托鉢姿で募金を行った。また相鉄の天王町駅前に四名、更には旭区希望ヶ丘駅前に六名が立ち托鉢をした。

暖冬のため、例年より寒くはなかったが、道行く人々に感銘を与え、多額の喜捨(一九二、五〇四円)をおおぐことができた。この寄金は「神奈川新聞厚生文化事業団」に寄贈した。わが保土ヶ谷・旭区仏教会の托鉢の様子を写真と共に送りました。掲載方向卒よろしくお願ひ申し上げます。



なお、平成二年の春の当区仏教会で正観寺住職善浪鉄心師が会長職を退任され、保土ヶ谷区上屋川町の東光寺住職志村輪孝師が就任された。

それから、会員の訃報です。旭区上川井町の高野山真言宗、長源寺の住職の新居宝全師が交通事故の被害にあい、平成二年十月十四日に御遷化す。誠に痛恨のきわみである。哀悼の意を表し告別の儀に参列ご廻向申し上げた。長源寺に参り新居宝壽師がなられた。

また昨年の十二月八日には、当区仏教会、及び当区仏教奉賛会の主催によります成道会の法要が旭区善部の「妙蓮寺」さんで修行された。朝十時ころからぼつぼつと善男善女が会場に集まりはじめ、午前十一時より開式の言葉があり、仏前に「妙蓮寺」総代により献香献乳がされた区仏会長より、啓白文の奉読があった。そして、長昌寺住職の発声で読経がはじまり、参拝者全員がお焼香をすませた。その後、名瀬の妙光寺住職の法話を約一時間いただき、式を終了。暖かいケンチン汁でお弁当をいただき散会した。お釈迦さまのお悟りを記念して毎年成道会を催す。

戸塚区

「戸塚の寺院誌」発刊について 泉・栄の分区によって「区仏」としての組織再編成の過渡期に、北見前会長の逝去が重なる。

平成元年度総会に於て「区仏会則」が承認され、新役員により発刊される。

そして平成二年度の市仏連四十年記念行事に参加することによって、組織としてようやく動き出したのが現況である。

二年度六月の総会に於て「区仏活動について」審議され、その一方法として「戸塚の寺院誌」の発刊となった。

七月九日に編集委員会が発足する。誌題名・編集方針・資金・業者選定等が審議された。

「本誌」の特色は、該当寺院住職による寄稿であり、形式・内容とも一切、校正しない。費用は該当寺院の協力金による自費出版である。寄稿の有無は各寺院の自由意志であること。

七月十一日付で編集委員会の審議内容を全会員に通知し、理解協力をお願いする。

八月二十三日付通知で具体的に寄稿について依頼する。

十月十日に第二回編集委員会をもつ。寄稿情況・注文数の集計・装丁・印刷等について審議し、業者に依頼することになる。

そして発刊予定は、原稿の集計が遅れ、また年末年始をはさみ諸般の理由があつて、平成三年一月末になる。

会員相互の認識と活動のあり方を模索しての「本誌」発刊であるが、好意的な噂がすでに拡まり注文数も始めの予想をこえて、二千六百冊にもなった。

また郷土寺院に対する関心がたかまり、地域社会に対する「布教伝導」の「布教本」として活用されることが期待される。

支部だより

泉 区

大本山鶴見総持寺、能登総持寺
祖院、大本山福井永平寺参拝旅行
に参加の見聞記

平成二年十月一日、当区仏は十
名の参加で六時半に中田寺へ集合
一人の遅れもなく時間通り全員揃
う。やがて迎えのバスが到着、す
でに瀬谷区仏よりの参加者が乗車
中であつた。晴天のためか全員が
ニコニコ顔で乗り込み発車。戸塚
矢沢交差点で龍長院御一行が乗り
込む。横浜駅前天理ビル前で全員
がバス二台に分乗して大本山総持
寺に向う。天気上々、朝日に輝く
新築に成つた三松閣に案内され、
本山の歓迎を受け、参加者七十名
にそれぞれ三松閣落慶と御移東記
念のお品を頂戴する。さらに諸堂
を拝観し、ひと廻りして三松閣か
ら境内に出た。長い広い廊下を歩
きながら心に大本山の広大さ、信
仰の偉大さを感じた。そしてお山
を後に上野駅に向う。鶴見から東
京と混雑の中をのろのろと進み、
上野駅につく。列車で新潟駅着、
そしてバスで弥彦温泉へ行き、一
泊。翌朝、個々に弥彦神社に詣で
る。二日目はさらにバスで石川県
の金沢市兼六園をたずねる。晴天
に恵まれ、汗をかきながら見学。
それから長途の道中をし能登門前
町の総持寺祖院に詣でた。火災に
あつた後、鶴見に総持寺が移り、
残つた建物を元に復興し現在の祖
院が出来あがつた由。誠にそれに

ふさわしい立派な構えである。御
本尊に向い一行全員で心経を誦誦
祈念し、祖院の御老師の法話を拝
聴した。広い境内、山内、池、そ
して本堂、庫裡、山を背にした見
事な伽藍結構である。茶菓の接待
を受け、遠路ご苦労さまとお言葉
を戴く。祖院を辞し暗くなつた道
路をバスはひた走り、和倉温泉に
到着、一泊。三日目は千里浜から
古九谷焼きの里に寄り、永平寺に
向つた。ちよつと雨にあつた。そ
れもトンネルの中だけのことで、

トンネルをぬけると雨は無く永平
寺に到つた。門前旅館で昼食、永
平寺山内へ入る。読経廻向、諸堂
拝観。米原駅より新幹線へ一路帰
浜する。今回の参拝旅行はお天気
に恵まれ、近くは鶴見総持寺から
出発してバス、列車を駆使して、
新潟、富山、石川、福井の遠くの
各県へと広範囲に走りまわり、多
趣向な旅であつた。本当に有難う
ございました。泉区仏でも他寺に
働きかけ、参加者をふやしたいと
存じます。

◎ 心にのこる仏跡参拝旅行を横
浜市仏教連合会では企画してお
りませう。

泉慰霊堂奉仕当番

- 神奈川区仏 平成三年四月五日
 - 西 区 仏 平成三年六月五日
 - 磯子区仏 平成三年十月五日
 - 港北区仏 平成四年一月五日
 - 中 区 仏 平成四年四月五日
 - 保土谷旭仏 平成四年六月五日
- 右の如く当番をお知らせ致して
おきます。尚当日が日曜日の日は
次の日に順延になりますので承
知おき願います。当番区は午前十
時までに上大岡の泉慰霊堂へ。

事 務 日 誌

- 2.6.4 三役会 於福聚寺
- 2.6.5 市仏連発
- 2.6.6 市仏連発
- 2.6.22 常務理事会 於西有寺
- 2.8.20 市仏連発
- 2.9.3 市仏連発
- 2.9.10 市仏連発
- 2.9.13 三役会 於福聚寺

第 32 回

春の仏跡参拝旅行

- 一、日時 平成三年六月十一日(火曜日・友引)
 - 一、行先 「身延山 久遠寺」(日蓮宗・山梨県)
 - 一、会費 御一名様 金八千円也
- ※ 帰途にはイチゴ狩りを予定しています。
- 一、申込 会費をそえて各菩提寺へ五月二十日までにお申込を
各御寺院様はとりまとめて区仏会長又は専務理事に人
数を連絡して下さい。集金はBS観光が参上します。

市仏新役員

選考委員会発足

役員選考委員会発足する。昨年
十二月十四日の理事会で。新メン
バー。南・港南区仏の片山宣英師
中区仏の上柳毅明師、鶴見区仏の
林田祐康師、瀬谷区仏の尾崎正憲
師、栄区仏の塩沢栄一師。宜しく
ご協議の程お願い申し上げます。

編 集 後 記

。昨年末、遅ればせながら、周年
大会記事を集めた。カラー写真
満載で少し大判の会報を発行した。
今年一月中旬に発送。御一読をお願
い申し上げる。多大なご縁により
円成したことをつくづく思い、あ
りがたいと感謝を申し上げます。

。世界平和を祈願して、各寺で年
頭行事が修されたと思う。しかし
宗教者の祈りとは何なのかと虚無
感を強いられる。イラクのクウェ
ート侵略による湾岸は、ついに平
成三年一月十七日に開戦状態とな
る。神のみぞ知るや神のご加護よ
りも人間の慈悲と智慧による非戦
の努力を放棄してはならぬと思う。



誌

- 2.9.18 市仏連発
- 2.10.5 市仏連発
- 2.11.1 市仏連発
- 2.11.19 市仏連発
- 2.11.26 市仏連発
- 2.11.26 周年行事報告反省会
- 2.12.3 第十六回涅槃会打合せ
- 於栄区大誓寺